

黒部川連携排砂に関連した今後の取り組みについて

黒部川ダム排砂評価委員会は、第54回黒部川ダム排砂評価委員会でとりまとめた評価に加えて、今後の取り組みに関して以下の通り提言する。

◇新たなステージにおける排砂評価のあり方

- 黒部川排砂評価の作業は、黒部川流域の社会と人々が安全に調和をもって持続するために、今後も最大の努力がなされていく必要がある。
- また、気候変動の影響が示唆されている自然災害対策については、自然災害に関する予測情報の利活用が積極的に進められるべきである。
- 黒部川における連携排砂は、平成13年の開始以来20年が経過し、礫河原の再生等に寄与する大粒径の土砂が宇奈月ダムを通過するようになり、今後、愛本地点を通過して下流にいかにも上手く供給されていくかという段階に入っていく。これは、連携排砂という取り組みが一定の成果を挙げ、次なるステージへと移っていくタイミングであるともいえる。
- 土砂を下流に供給していくことが、まさに河川における本来の営みでもあり、それを止めないで維持する、すなわち河道から海岸、更に海域まで含めた物質の移動・循環を維持していくことが重要である。
- その中で、蛇行や砂州、瀬、淵などの地形や河床の軟度などが変化し、生きものの生息場所の保全、創出等につながるものが予測されることから、こうした変化にも着目して、連携排砂の効果を幅広く評価していくことが重要である。
- このようなことから、今後を連携排砂の新たなステージと捉え、従来の排砂手法や環境影響に関する評価に加え、河道の地形変化や生きものの生息環境の変化などを含めた新たな指標による評価を実施するとともに、これらの結果については、広く分かりやすく広報していくことが求められる。
- なお、気候変動による自然災害の激甚化や、広域の海洋環境の変化に伴う漁業影響把握の困難性を踏まえ、本委員会や行政だけでなく、流域及び海域で生活を営む広範な関係者が気候変動等による危機の認識を共有し、安全・安心の追求に協働で取り組む方向性が模索されるべきである。

以 上